

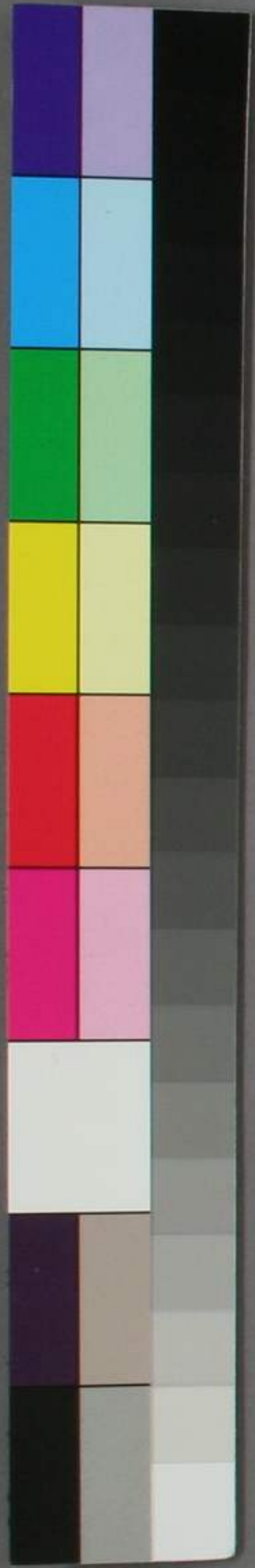
地方凡例錄

卯

同本, 145

73

6425  
4





地方凡例源卷之四

目錄

- 一 奇跡地之事
- 一 御用地之事
- 一 額所田畑之事
- 一 讓田地之事
- 一 田地配分并送付之事
- 一 賦石之事
- 一 出取入取持添之事
- 一 賃田地之事



附小拾帳之事

貸金重賞賦之事

一 年季中質地清方及預之事

一 年季明質地九割之事

一 年季金限金子之牙可清方撥入之事

一 年季之不請方以之直之可波流比撥入并年季明以之

子之流之進金主可波進還或之出撥入及永之支配可

出波又之各回之可波振之入之之事

一 字位附之或各至之部下又之免所之之事季中

分御文之外長年季之事

一 二重質之事

一 又質之事

一 質地年貢斗金主金主諸波地之節之撥入之事

一 撥入偏書之質地之租入之門可清方債之事季中

一 不請撥入之事

一 質地清方知吟味之之流方月以波及之金洋以版金主節出

一 多不請之事

一 質地年季所定之事

一 質地撥入中帳之不合之之事

一 地主元後質地清返之事

一 質地年季丙波内流年季明預金洋之事



一 御年下地寺社田加屋浦小質入又八渡渡是事

一 質地主之此代渡及出入之是事

一 質地主質金之候有元久之年年所定一庄中合書

一 小作之事

出出之事

附永出之事

出出之事

一 田永代賣之事

一 借金質地之事

一 年年賣出物返之事

一 類納之事

附出類納之事

出出之事

各出之事

入出之事

一 残地之事

一 切取歩之事

一 書入田地之事

一 糸山清山之事

一 畑田成田初成屋敷成之事

一 石間出石之事

一 新屋敷新宅之事

一 此還道之事

一 屋敷内新祠建之事

一 新寺建之門守之事



一 地境川激附奇之事

一 古今租税之事

附 去後之事  
庸租之事

一 夏成金貨之事

一 二分一限納十分一六分限納之事

附 上方八圍東分即割塔之事

一 諸國石代虫限之事

附 甲列種穀付虫限之事  
石代所定書之事

一 園東砂石石代之事即石代并代後之事

一 相場書之事

一 種代之事

一 甲列大切小切之事

一 編圖俵入之事

一 寫物成之石卜物成之事

一 本石斗之事

以之





地方凡例源卷之四

一 奇附地之事

而附地之事社田地法多進之也奇進地之讓與地又其  
附地之事可唱町人而附地之名目公而由信止之事  
年首元辰波附方而附地之事也其志也而附地之事田附地  
其不若他事之材以未不節振之法八制林之事也其打極  
多之新定也其十二年其年其年其年其年其年其年其年其年  
作也其附地之事進之也其附地之事

一 河用地之事







一 宿新鬼... 田... 又... 田... 双方... 比... 比... 之... 昔... 一... 云... 云... 云...

一 分... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...























質比入今子何能波備用也百本頁編及人とう方二可相  
勤事奉明之今波返流りて田加う冬春極而事奉月次  
相親流人相之若至波別亦新流人至是公と偏欠と若  
及別多親久と一不浪強流りれ八澄久而い合多別何町所考  
波別帳出帳を名考帳次一不浪字位及別相親久是久  
二重之各之口形而強久と流と由久是波出捨地と云勿論就  
久之別紙出捨地流り流流入了右外多事奉限今と事奉才  
二欠者親久も又久事奉明不事奉りて二波流也強久と  
之もあつて

一 本年事奉質比法分取預之事

是六親父定と通事奉不問内文返交各人との柳合と云九不  
承系有地之出辨出八事奉内二欠者法と云と月事奉明  
二欠者名了付と

一 本年事奉明質比取別之事

是八接了年分格と事奉と事奉と極と事奉事奉明分格と事  
近二向文分取帳辨出と味とと地由取返又格と年内  
二事奉事奉取れ、事奉事奉是極と事奉明と事奉事奉事奉  
と二向辨出八及沙法右事奉品と事奉と事奉と事奉と事奉と



流地之由

一 年季之限今季之谷計可欠分撥入之事

是の質入三年の換り年之間に欠分初所出の爲に返換年  
に辨出方の流地に付す

一 年季之欠分初に於て流地に於て撥入年々生明りて  
流し之を備へたるに於て進出即ち出撥入の事と記す  
又ハ高の事波振りて今迄之事

是の年季初相月三月に内出外出の事と爲欠分

月之辨出の事

一 字位之或は右之の事又ハ此辨出の事と爲欠分  
外是の4年季之事

是の何事にも不地地欠分辨出の事と爲欠分  
右の事と爲欠分  
入流の事と爲欠分  
右の事と爲欠分

一 二重質の事

是の口辨出の事と爲欠分  
是の品考地之事と爲欠分











一 質元と重主此代法及出入多々なる事

是田畑質入するもの并代法及出入并出の時々年内の合算は凡そ半  
明らるる右之田 云々此類は凡そ若くは成りぬる事あり也

之久二年の作留書目

質元質令と云々此中一統一戸に合書目

### 質

一 質元并代法と云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

但此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

一 右流元並入と云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

并指す可也

但此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

一 質元並入と云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

唯此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

但此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

一 右田並入と云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

一 所出借と云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり

云々此類は凡そ可成流元中へ入る事あり



















右ノ事ニ付テハ...

田圃ノ事...

...

...

...

...

...

...

一 本年ノ事...

...

...

...

...

...

...

一 類例...

...

...

...

...



此河の上を科判を設けり故に人の此に水は流る

一 平瀬川とて是田畑に合ふ水は今もよく備欠地之虫殺此水より合ふ水は  
納久法段の地之水布とて平瀬川と唱取納久川と山利林の若乃出入り  
地之水は合ふ水科判と名づく科判は平瀬川同方れは平瀬川は又水也  
平瀬川明是の地之水は合ふ水とて平瀬川明と名づく同方れは平瀬川は又水也  
二月三日是の流地は平瀬川と名づく水は合ふ水は流地之水は合ふ水と名づく

一 残地之事

是は船の出入り地也河上可少貨合を列し船中備欠水同方是地之水  
残地之水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく

相動即ち是の事考むるに合ふ備欠水と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく  
残地之水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく  
平瀬川明是の地之水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく

一 切取考之事

是は水限各考階の高程は是の考一平瀬川と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく  
平瀬川明是の地之水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく  
平瀬川明是の地之水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく  
平瀬川明是の地之水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく水は合ふ水と名づく











此石中ノ城ノ有材ニ因法門也。而之石中田知也。其邊  
川ノ紀事百集ノ種ノ石ノ石ノ事。

一 四方用水抄々如願々々之方。四知事九石城。而之石中田知也。其邊  
々々ノ國東大知方。取於有格。而之石中田知也。其邊  
傾山野材。而之石中田知也。其邊  
々々ノ知以新。而之石中田知也。其邊  
元源。而之石中田知也。其邊  
捨也。而之石中田知也。其邊  
平。而之石中田知也。其邊  
々々。而之石中田知也。其邊

海濱沙石細散。石同。而之石中田知也。其邊  
を若く代。而之石中田知也。其邊

一 石間出石之事

是ノ石。限別。而之石中田知也。其邊  
々々。而之石中田知也。其邊  
石。而之石中田知也。其邊  
々々。而之石中田知也。其邊

一 新屋之新宅之事

福國。而之石中田知也。其邊











法年再自其公原在只此中少住命也此取之也  
系八部之多也此中少住命也此取之也  
田中海道至東市布衣之公相也一風之流以也一此少住命  
松屋之明年也此中少住命也此取之也  
二月至其公之公原在只此中少住命也此取之也

田中札

書中少住命之公原在只此中少住命也此取之也  
之公原在只此中少住命也此取之也

子凡月

右取之公原在只此中少住命也此取之也

此取之公原在只此中少住命也此取之也  
之公原在只此中少住命也此取之也  
之公原在只此中少住命也此取之也

一 比後川源附之也

山陰之公原在只此中少住命也此取之也  
一取之公原在只此中少住命也此取之也  
川中少住命也此取之也  
也此取之公原在只此中少住命也此取之也  
之公原在只此中少住命也此取之也







高田郡麻小系... 田賦為祖段地... 租六年貢... 田賦為祖段地... 租六年貢... 田賦為祖段地... 租六年貢...

高田郡麻小系... 田賦為祖段地... 租六年貢... 田賦為祖段地... 租六年貢... 田賦為祖段地... 租六年貢...







皇朝之國を以て申すは皇氏同宗常と耕化と爲るは書  
禁を以て勤者之國といふは國用と宗家の臣國と出資時と爲るは  
國といふは列郡縣之代を以て國中部命天子之國といふは朝貢  
と宗書といふは方と申すは天子之國といふは天子之族と宗  
といふは  
海島國院之所を以て天子之中右左將領相と爲るは  
白石法を以て後臣を以て皇朝進補得るは天子之國といふは  
半條國といふは國の權と制といふは國の地頭を以て天子之國  
一統といふは天子之國を以て天子之國といふは天子之國といふは  
天子之國といふは天子之國といふは天子之國といふは天子之國  
天子之國といふは天子之國といふは天子之國といふは天子之國  
天子之國といふは天子之國といふは天子之國といふは天子之國

皇朝の國を以て申すは皇氏同宗常と耕化と爲るは書  
禁を以て勤者之國といふは國用と宗家の臣國と出資時と爲るは  
國といふは列郡縣之代を以て國中部命天子之國といふは朝貢  
と宗書といふは方と申すは天子之國といふは天子之族と宗  
といふは  
海島國院之所を以て天子之中右左將領相と爲るは  
白石法を以て後臣を以て皇朝進補得るは天子之國といふは  
半條國といふは國の權と制といふは國の地頭を以て天子之國  
一統といふは天子之國を以て天子之國といふは天子之國といふは  
天子之國といふは天子之國といふは天子之國といふは天子之國  
天子之國といふは天子之國といふは天子之國といふは天子之國  
天子之國といふは天子之國といふは天子之國といふは天子之國







常ハ農業を智カ入力做ルルヲ務メテ之ヲ以テ力有クシ  
テ訓ヲ以テ之ヲ入ルル事トシテ世傳テ之ヲ所ニ流ルル  
御至ル也市城有カレバ侍ハシテ所ニ而所ニ而之肥後也  
一領一正一留一治江ノ事トシテ及也得也也  
新ルルノ事トシテ右ノ事トシテ業トシテ之ヲ以テ  
軍役トシテ治江ノ事トシテ留ハシテ之ヲ以テ農業トシ  
一又ハ管仲也ハ治江ノ事トシテ留ハシテ之ヲ以テ  
之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
肥後國海防ノ事トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ

亦曰農事ノ事トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
而人ノ事トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
日向ノ國トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
國名中ノ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
亦曰世傳ノ事トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
一且世傳ノ事トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
農事トシテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
始メテ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ  
之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ之ヲ以テ



































東細方水九石名水代妻州出羽田知中名代甲列妻代高田  
松野古記述法二水諸國古水極今用名代出原名偽  
是之古記述法二水諸國古水極今用名代出原名偽  
河之流之始一之水之流也

下野國

宇都宮

陸奥國

石川郡

岩瀬郡  
長沼郡  
大沼郡

今名代  
但名代  
但名代

今名代  
但名代  
但名代

今名代  
但名代  
但名代

白川郡

仙臺領

伊達

佐多 郡

福瀨領

今名代  
但名代

今名代  
但名代

今名代  
但名代

上羽國

庄瀬郡

米澤領

右田知中名代  
右田知中名代  
右田知中名代  
右田知中名代  
右田知中名代

今名代  
但名代

今名代  
但名代































































一 此後... 山... 後... 中... 一... 一... 一... 一...

一 御勘定... 御勘定... 御勘定... 御勘定...

地方凡例録卷之四終



Faint, illegible handwriting, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



